

「むかわタンチョウ物語」絵本出版事業

一むかわの湿地で生まれたヒナが地域の人たちに見守られながら、たくましく育つようすを子どもの視点で描くー

ネイチャー研究会 in むかわ
(むかわタンチョウ見守り隊)

「2011年に道東から2羽のタンチョウが胆振のむかわ町にやってきた」今までも毎年のようにタンチョウはむかわ町に来ていたので、喜びながらも、居るのは1週間くらいかと思っていました。つがいと思われるタンチョウのペアが現れるたびに、むかわ町の狭い湿地を思います。豊かな自然環境でありながら、この大きくて美しい鳥が子育てするには狭すぎると思っていたのです。

この若いつがいは私たちの思いとは別に「換羽」(成鳥になるために羽根が生え変わり、しばらく飛べない時期)のため、むかわ町で夏を過ごしました。冬に鷗川が凍結してからも近隣の凍らない川に残っていました。そして、春になり子育てを始めたのです。私たちは鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリの原田修レンジャー・正富宏之先生の指導を受けながら、人が湿地に近寄らないように、そっと見守り、ヒナが順調に育つことを願っていました。6月近くになると、家族はヒナを連れて河川敷近くに出て来ます。



そうすると今度はヒナが無事に飛べるようにと願いました。彼らが居てくれる幸せをかみしめながら、冬も給餌に頼らず、家族だけでたくましく生き抜く姿を見えています。20



15年5月末、タンチョウ家族は心ないカメラマンに追われ、用水路にヒナが落ち行方不明になる事故が起きてしまいます。ヒナを亡くしたつがいが飛び去ってしまったときに、私たちがしなければ

ばならないことが見えてきました。野生生物であるタンチョウを正しく理解するための研修会を開き、そして、このような事故が再び起きないように「そっと見守る」から「積極的に見守る」ため、【むかわタンチョウ見守り隊】が発足したのです。

この「むかわタンチョウ物語」は私たちの観察の中から生まれました。2018年に生まれたヒナが子別れを経験するまでの話です。厳しい環境の中で生きるタンチョウを次世代を担う子どもたちに正しく伝えたい、そして、懸命に生きる命の輝きを感じてほしい。

また、この絵本を通じて、子供たちばかりではなく、タンチョウのいる身近な環境の豊かさを考え、自然を守ることの大切さを伝えたい。こんな願いからこの物語はたくさんの方の協力をいただき誕生しました。

絵は「むかわタンチョウ見守り隊」の小山留美さんに、監修は正富宏之先生にお願いしました。

この絵本の制作にあたって、前田一步園財団さんには助成をいただき感謝申し上げます。

